

コース名	科目名			対象学年
人体の構造と機能Ⅱ	臨床発生学			2
開講学期	科目責任者	副責任者		
1学期	毛利 聡		全体資料 無	

#### 授業到達目標

1. 配偶子の形成、胚形成から出生までの経過を説明できる。
2. 胎児循環とその異常を概説できる。
3. 神経系の分化とその異常を概説できる。
4. 頭頸部の発生とその異常を概説できる。
5. 体肢の発生とその異常を概説できる。
6. 心臓・血管の発生とその異常を概説できる。
7. 感覚器の発生とその異常を概説できる。
8. 生殖腺の発生とその異常を概説できる。
9. 個体発生異常における遺伝因子と環境因子を概説できる。
10. 消化器の発生とその異常を概説できる。

#### 授業計画

回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	5/ 9	木	1	講義	西松	自然	受精から原腸形成まで	C-2-4)-1
2	5/13	月	1	講義	西松	自然	体節の形成と分化	C-2-4)-2
3	5/17	金	4	講義	西松	自然	体腔の形成とその異常（横隔膜ヘルニア）	C-2-4)-7
4	5/22	水	4	講義	松田	病態代謝	胎盤の発生、胎児循環の形成とその異常	D-10-3)-2, E-7-1)-1
5	5/30	木	3	講義	松田	病態代謝	神経管の分化、脳、脊髄、下垂体の発生とその異常	C-2-4)-9, D-12-4)-(1)
6	6/ 3	月	3	講義	西松	自然	頭頸部の発生とその異常（第一第二鰓弓症候群）	C-2-4)-8
7	6/ 6	木	3	講義	橋本謙	生理1	心臓の進化と発生	C-1-2), C-2-4)-5
8	6/10	月	3	講義	橋本謙	生理1	先天性心疾患と循環動態	C-2-4)-5, D-5-4)-(6)-1
9	6/12	水	4	講義	郷	病態代謝	平衡聴覚器の発生とその異常	C-2-4)-9
10	6/17	月	3	講義	松田	病態代謝	生殖腺の発生と性分化異常	C-2-4)-6, D-9-1)-1
11	6/20	木	3	講義	大友	病態代謝	先天異常一個体の発生異常における遺伝因子と環境因子	C-4-1)-6, E-7-1)-2
12	6/21	金	3	講義	西松	自然	体肢の発生とその異常（軟骨無形成症、多指症など）	C-2-4)-3
13	6/25	火	2	講義	毛利聡	生理1	原発性線毛機能不全症候群（カルタゲナ症候群）	C-2-1)-(2)-4, C-2-4)
14	6/25	火	3	講義	毛利聡	生理1	先天性消化器疾患	C-2-4)-4
15	6/26	水	3	講義	毛利聡	生理1	眼の先天性疾患	C-2-4)-9

#### 評価方法

[期末試験]80%  
 [出席状況（受講態度）]20%  
 [評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて

試験後でも不明な点に関しては積極的に質問すること。

#### 教科書

ISBN-978-4-89592-839-7 c3047, ラングマン 人体発生学, T. W. サドラー, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016

#### 参考書

(特になし)

#### 準備学習（予習・復習等）

予習に関しては、教科書の総論的内容と該当箇所を読む。復習に関しては講義スライドや資料で理解を深めておくこと。

講義についての注意事項

系統講義では基礎的・総論的な知識を固めてから応用的・各論的なテーマに進むことが多い。本科目では学問が形成されてきた順序、つまり先に現象が認識され、後にメカニズムが明らかになってきたという経過を可能な限り意識して講義が進められる。「何故こんな病気になるのだろうか?」という好奇心から始めることこそが最も肝要である。

昨年度からの変更点・改善項目

(特になし)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について

1年次の人体の構造と機能で学んだ各臓器・器官のマクロレベルでの機能と2年次前半に分子生物学で学んだ細胞・分子レベルでの知識を統合して各疾患の病態を多階層的に捉えることが目的である。このような考え方を習得することで基礎医学と臨床医学、総論と各論の関係を理解することが可能となり、臨床講義・実習においても好奇心を持って疑問を抱き解決しようとする努力が継続する力となる。

ナンバリング

BLCB208